

提言第 2 号 急性肺血栓塞栓症に係る死亡事例の分析

事例番号：事例5

< 事例概要 >

脳神経外科

- ・脳腫瘍摘出術と術後化学療法を目的として入院した 60 歳代の患者。BMI 33
- ・高血圧、糖尿病あり。心房細動に対し抗凝固薬服用。日常生活動作（ADL）はおおむね自立。
- ・入院 2 ～ 8 日目（手術当日）は抗凝固薬をヘパリンに変更して投与。術中は間欠的空気圧迫法を施行。術後、腫瘍摘出腔内に血腫を認め気管挿管のまま管理。その後、血圧が低下し呼吸状態も悪化、救命処置を施行するが手術当日に死亡。解剖により急性肺血栓塞栓症と診断。